

地団研に入会すると

出版物の送付 : 会員には、下記の出版物が送付されます。会員は自由に投稿できます。

『地球科学』: 季刊の学術雑誌です。団体研究グループや個人の研究論文、地球科学に関する情報などが掲載されています。

『そくほう』: 毎月発行の連絡紙です。最近の研究動向、各種研究会・シンポジウムの開催予定、各団体研究グループのトピック、支部の活動のようす、出版物の紹介などが掲載されています。

『地学教育と科学運動』: 年2回発行の地学雑誌です。地学教育関係だけでなく、地学に関する最近の話題、地学研究のアイデア、各地の普及活動の経験など地学に関するさまざまな内容が掲載されています。

団研に参加 全国で活動する団体研究グループ(団研グループ)に参加して研究したり、新しく研究グループを作ることができます。

行事に参加 地団研の主催するシンポジウムや講演会など、さまざまな行事に参加できます。

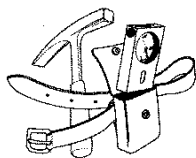
もっとも大きな行事は、年1回開かれる「総会」です。多くのシンポジウムや各種テーマでの分科会、ポスターセッションが行われるほか、年間の活動の総括や今後の活動の方針が議論され、決められます。

支部 会員になると、原則として各地の「支部」に所属することになっています。会員は支部ごとに行われている講演会や勉強会に参加したりすることができます。また、市民向けの「地学ハイキング」の企画に参加することを通して、地域に根ざした研究交流や地学の普及活動などを行うことができます。

年会費

一般 : 9,000円
高校生・学生・院生 : 1,000円

(社会人入学・再入学などは対象となりません)



豊富な地団研の出版物

地団研では、幅広いテーマでたくさんの出版物を編集・発行しています。地団研で発行する出版物は、原則として会員頒布となっています。詳細はホームページをご覧ください。

地学ハンドブックシリーズ

フィールドワークや実験・観察に役立つ入門書です。地学の入門テキスト、中学校・高校でのクラブ活動や理科実習のテキスト、市民向けの地学ハイキングのテキストとして好評です。

地学双書

専門テーマごとの各種調査法、分析手法などを紹介する書籍です。大学での講義テキストとしても活用されています。

専報

テーマ別の論文集で、個人や団体研究グループの最新の研究成果が発表されています。各テーマの研究動向を学ぶことができます。

ブックレットシリーズ

研究の進め方、地学をとりまく情勢など科学理論のテキストとして好評です。

出版社の書籍

★地団研が編集・執筆し、出版社から発行した下記の書籍も好評です。会員割引制度で購入できますので、ご希望の方は地団研事務所にお問い合わせ下さい。

『地球のなぞを追って 私たちの科学運動』(大月書店)
『日本の地質』(全9巻+別巻 共立出版)
『日本の地質 増補版』(共立出版)
『新版地学事典』(平凡社)
『新版地学教育講座』(全16巻 東海大学出版会)
『自然をしらべる地学シリーズ』(全5巻 東海大学出版会)
『シリーズ自然だいすき』(全5巻 大月書店)

地学団体研究会

The Association for the Geological
Collaboration in Japan
(Chigaku Dantai Kenkyukai)
since 1947



駿河湾団研の調査風景

〒171-0022
東京都豊島区南池袋2-24-1(八大ビル301号)
TEL: 03-3983-3378
FAX: 03-3983-7525
E-mail: chidanken@tokyo.email.ne.jp
HP: <http://www.chidanken.jp>

(全国に支部があります。ホームページを
ご覧いただくか、事務所にお問い合わせ下さい)

地学団体研究会（地団研）とは

地学団体研究会（略称：地団研）は、1947年に、地球科学の研究者や愛好者によって設立された学術団体です。

地団研の会員には、大学や研究機関の研究者、小中高の教員、地質技術者、博物館の学芸員、大学院生、学生のほか、地球科学に関心をもつ市民などさまざまな人たちがいます。

地団研の特徴は、「創造・普及・条件づくり」を柱にして、さまざまな活動をすすめていることです。私たちはこのような活動を「三位一体の科学運動」と呼んでいます。

創造活動（研究活動）は、地団研のもっとも中心的な活動です。個人の研究と、参加者が対等な立場で参加し議論をしながら研究を行う方法である団体研究（略称：団研）をすすめています。

普及活動は、地団研のユニークな取りくみの一つです。創造活動の成果や自然を探求する楽しさを多くの人に知ってもらうことを目的に、地学ハイキング・講演会・技術講習会などの開催、普及用の書籍やパンフレットの発行などをおこない、好評をえています。

条件づくりは、上記のような活動をいっそう発展させるために、研究条件の整備・改善・充実などを行う活動です。

団体研究（団研）の魅力

各地ですすめられている団体研究（略称：団研）は地団研のもっとも中心的な活動です。各地域の団体研究グループには、階層や専門が異なる人たちが集まり、個人研究と並行させながら、調査・研究活動をすすめています。

討論で深める

団体研究とは、参加者が対等な立場で議論をたたく合わせ、それをバネにして調査・研究を盛り上げていこうとする研究のすすめかたです。

フィールドが原点

フィールドでの基礎的な調査は、地質学の原点です。フィールドで議論し、新しい発見をし、論文にまとめていく、新しくつくり上げていく作業は、魅力あふれるものです。



団体研究は学びの場

団体研究に参加することは、フィールドワークをはじめたばかりの人にとっては、野外研究の方法を学ぶ、とてもよい機会でもあります。積極的に団体研究に参加されることをお勧めします。

団体研究へ参加するなどの活動を通して、フィールドワークの技術と楽しさなどを学び、自然探求の喜びと厳しさを体験できる貴重な機会がえられます。

皆さんの入会をお待ちしています。

分野別の団体研究グループ

●第四紀●

新潟古砂丘団研／新潟平野西縁団研／荒浜砂丘団研／関山山地団研／新潟ローム団研／ネオテクトニクス研究会／信濃川ネオテクトニクス団研／小千谷地殻変動団研／高田平野団研／八ヶ岳団研／松本盆地団研／関東火山灰グループ／金剛萱遺跡研究会／笠森団研／下総台地研究グループ／安房団研／関東平野西縁丘陵団研／箱根発生期団研／上信火山団研／沖積研究グループ／下仁田大規模地すべり研究会

●新第三紀●

秩父盆地団研／米山団研／設楽団研／新潟姫川（根知川）団研／妙義団研／駿河湾団研／多度団研／本宿陥没研究会／室生団研／英彦山団研

●中・古生代●

関東山地団研／紀州四万十団研

●岩石・鉱物●

朝日団研／周琵琶湖花崗岩団研／濃飛流紋岩団研

●古生物・生物●

生痕研究会／生痕研究グループ

●構造地質●

島弧深部構造研究グループ

●応用地質●

福島第一原発地質・地下水問題団研

* 団研の連絡先など、詳細については地団研事務所までお問い合わせ下さい。



地団研の目的（地団研規約から）

- (1)個人研究を基礎に、団体研究を盛んにし、独創的な地学の創造をはかる。
- (2)地学教育の体系化と地学の正しい普及につとめる。
- (3)創造・普及活動を行うための諸条件の向上をはかる。
- (4)公害や災害の克服および環境問題の解決に役立つ地学の構築を市民とともにすすめる。
- (5)対等・平等で、自主・民主・公開の原則にたった国際交流と国際協力をすすめる。
- (6)科学・技術が他国への侵略の目的や戦争の準備のために使われないよう努力する。